
超小説版ケロロ軍曹 新

リルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超小説版ケロロ軍曹 新

【Nコード】

N9087Y

【作者名】

リルル

【あらすじ】

ある日 ケロン軍からケロロ小隊に手紙が届いた その内容は新たな小隊を
応援としてペポコンへ派遣するという
内容だった…

1 更新は不定期です

2 本編とあらすじはストーリーが異なる場合がありますご注意ください

ださい

3タイトルを修正しました

登場人物紹介（オリキャラ）

オリキャラ

鈴木翔子すずき しょうこ

年齢 15

本作の主人公で麗華の友人 日向秋の親戚の子でわけありで日向家に居候している

西澤麗華にしざわ れいか

年齢 16

桃華の姉で5年前に何者かに拉致されている それ以降の詳細が不明

古山哲也ふるやま てつや

年齢 15

（設定変更）

月で生まれた少年

サブローによく似ていて冬樹やケロロの事を何故か知っている
本作品の重要人物の一人（多分…）

オリケロ

リルル小队 通称 なでしこ小队

リルル少佐（隊長）

性別 女

共鳴 リルルルルルルルルル

マリリ曹長（作戦部長）

性別 女

共鳴 マリマリマリマリマリ

サララ看護長（医療関係等）

性別 女

共鳴 サラサラサラサラサラ

リリス軍曹（兵器開発等）

性別 女

共鳴 リスリスリスリスリス

エミリ上等兵（衛星管理等）

性別 女

共鳴 エミエミエミエミエミ

第零話

いつも通りに作戦会議を始めるケロロ軍曹

ケロロ「諸君何かいいアイデアがあるか！」

小隊「シーン」

ケロロ「何も考えてねえのかよ！」

ギロロ「それはこっちのセリフだ！」

ケロロ「だって だって」

翔子「入るわよケロちゃん」

主人公である翔子が入って来た」

ケロロ「なんでありますか翔子殿」

翔子「ケロちゃんあてに手紙よ」

ギロロ「ケロロに…」

手紙を見るケロロ

ケロロ「これは軍からの手紙であります」

ギロロ「ケロン軍からだ」と

モア「読み上げます」「ケロロ殿 応援としてリルル小隊をペポコンへ

派遣する 到着予定日はペポコン

時間11月25日」

ケロロ「11月25日ていうと…」

翔子「今日よ」

クルル「高速で何かが接近中だぜ」

ドシャーン

小型の円盤が日向家に落下

???「リルリルリルリル」

共鳴をする謎の生物

ギロロ「貴様何者だ！」

ケロロ「もしかしてリルル殿でありますか？」
リルル「そっよ」
つづく

第巻話（前書き）

お気に入りに登録してくれた方ありがとうございます
近々新の続編の予告編を公開する予定です
それでは本編どうぞ

第巻話

ギロロ「貴様何者だ」

リルル「私の名はリルル」

「どうやらケロン人らしい」

ケロロ「リルル殿きみの小隊メンバーはどこに…」

リルル「ああっ！忘れてた 確か大気圏突入時に…」

ドロロ「はぐれちゃったのでござるか？」

リルル「うん」

翔子「ケロちゃん」

ケロロ「なんでありますか？」

翔子「明日みんなでリルルの仲間を探しに行かない？」

ケロロ「いいでありますか…」

ギロロ「隊長の命令ならしょうがない」

不満そうに言うギロロ

ケロロ「明日リルル小隊メンバーを探すであります」

小隊「了解」

ドロロ「どうしたでござるかタママ殿」

タママ「あの女軍曹さんといちゃいちゃしゃがって…」

「そうタママにとって翔子はモアと同じ存在なのだ

つづく

第卅話（後書き）

短くてすみません

意味不明の所があっても気にしないで
ください

第貳話

翌日 リルル小隊のメンバー探すために
集まったケロロ小隊と冬樹と夏美と
翔子と桃華

夏美「なんで私がボケガエルの仲間を
探さなきゃいけないのよ！」

翔子「いいじゃない」

冬樹「そうだよねえちゃん」

桃華「西澤財閥も喜んで捜索に参加
いたしますわ」

ケロロ「ありがとうございます桃華殿」リルル「…… みんなあり
がとう」

ケロロ「クルル！ 早速探查衛星で
捜索を実行するであります」

クルル「了解だぜ」

ケロロ「我が輩たちは宇宙人街で
聞き込みであります」

タママ「軍曹さん」

ケロロ「なんでありますか？」

タママ「確か宇宙人街はペポコン人は
立ち入り禁止じゃ」

ケロロ「すっかり忘れてたであります！」

冬樹「その宇宙人街でなんなの？」

クルル「それなら問題ないぜ」

冬樹「聞いてないし」

ケロロの部屋の転送装置からスーツの
ような物が転送されて来た

ケロロ「さすがクルル！」

そのスーツは通称宇宙人型ペポコン人
スーツ 地球人が宇宙人になりきる

ために開発されたスーツ

しかもウルトラマンの初代バルタン星人に似ている

桃華「これを着るんですか？」

翔子「少し抵抗感があるわね」

ケロロ「宇宙人街にいる間は我慢して

ほしいであります」

冬樹「軍曹の頼みなら」

タママ「そろそろ行かないと」

ケロロ「今から出発であります！」

第貳話（後書き）

次は宇宙人街が出て来ます

第参話

宇宙人街　ここはたくさん宇宙人が訪れている

冬樹「すごい！すごすぎる！　こんなに宇宙人が地球に来てたんだね軍曹」

ケロロ「まさかこれだけで興奮するとは恐るべし冬樹殿」

冬樹「軍曹　聞いているの？」

ケロロ「な　なんでありますか冬樹殿」

冬樹「聞いてなかったんだね……」

そこへ1人の宇宙人が話かけてきた

???「おい　ケロン人！」

ケロロ「なんでありますか」

タママ「お前はサキ星雲のサキエル！」

サキエル「よく知ってるな」

翔子「ちよつとききたい事があるんだけど」

サキエル「なんだ？」

翔子「この写真の4人見てない？」

サキエル「ちよつとかしな」

写真を見つめるサキエル

サキエル「見た事ねえな」

冬樹「そうですか」

サキエル「写真を見て思い出したんだけど」

タママ「なにをですか？」

サキエル「昨日一人のペポコン人の女

が来たんだ」

ケロロ「ペポコンでありますど〜」

サキエル「その女は確か青色の髪をしていた」

桃華「その人は今どこに？」

サキエル「多分駐在所だと思っよ」

ケロロ「駐在所…」

サキエル「宇宙警察に連行されるのを

見たから」

ケロロ「ありがとうございますサキエル殿」

サキエル「困った時はお互い様さ」

そう言って離れるサキエル

翔子「とりあえず行ってみる？ケロちゃん」

ケロロ「行くであります」

つづく

第参話（後書き）

いよいよ次回あの人物が登場！
あのドラマとのコラボ企画！！

番外編 1 麗華の取り調べ

宇宙刑務所 ここは違法行為をした宇宙人及び無断侵入した地球人が入れられる所である

麗華「なんで私ばかり…」

警官「取り調べの時間だ」

取り調べ室に入る女と警官

警官「警部殿 警部補殿 あとは宜しくお願いします」

警部「わかりました」

警官は出ていった

警部「取り調べに入ります 単刀直入にお尋ねしますか 君は何故地球人なのに宇宙人街に入ったのですか？」

麗華「……」

警部「沈黙してないで答えなさい！」

警部補「君もさりっぱな地球人

なんだからさ白状したらどうなの？」

麗華「全て話します…」

麗華は全てを話した

自分の過去を

何故宇宙人街にいるのかを

警部「なるほどそうでしたか…」

警部補「しかし君も災難だったね」

麗華「私罪になりますか？」

警部「法律上は罪になりますか

なんとか上にかかけあってみます」

麗華「ありがとうございます」

こうして麗華の取り調べは幕を閉じた

番外編 1 麗華の取り調べ（後書き）

ここで登場した警部と警部補は実は相棒の杉下右京と神戸尊の事です
ちなみに取り調べ時期はケロ口達
が
宇宙人街に来る1日前という設定です

第四話

ケロロ「やっとなついたのであります」

何者かが声をかける

???「そのケロン人！」

タママ「ポヨンちゃんにポワンちゃんですう」

ケロロ「やべえ」

ここで説明しよう 長い髪野毛した

警官は宇宙人街 サイドシックス

駐在所勤務の ポヨン 巡査部長だ

そして同じく駐在所勤務のポワン 巡査長だ

ポヨン「その4人は誰でポヨ？」

ケロロ「この4人はヒステリック星

のヒステリック星人であります」

夏美「誰かヒステリックですって!!」

翔子（変なネーミング付けないで欲しいわ）

いつもケロロに優しい翔子もさすがに

心の中でキレている

ケロロ「すぐ怒るのがヒステリック

星人の特徴であります」

ポワン「後で確認して見るポワ」

ポヨン「今日はなんのごようポヨ？」

ケロロ「宇宙人街にペポコン人がいる

て聞いたんだけど」

ポヨン「その件ね 昨日そのペポコン人を逮捕して送検したポヨ」

ケロロ「ええ！」

ピ！ピ！

とポヨンの携帯がなる

ポヨン「ちよつとまつポヨ

もしもし 刑事部長ですか」
ある程度話が進み
ポヨン「彼女がケロン人？」
部長「そうだ」
ポヨン「しかし体型などが全く…」
部長「戸籍上そうなっている
後もう一つニュースだ」
ポヨン「はい？」
部長「彼女が釈放される事になった」
ポヨン「釈放ですか？」
部長「そうだ 明日になる」
ポヨン「わかりました」
携帯を切る
ケロロ「誰からでありますか？」
ポヨン「刑事部長から例のペポコン人
明日 釈放だポヨ」
冬樹「良かったね軍曹！」
ケロロ「ポヨン殿お願いがあります」
ポヨン「どういう？」
ケロロ「そのペポコン人と面会させて
ほしいであります」
リルル「私ものぞむわ」
ポヨン「部長に頼んで見るポヨ」
こうして無事に釈放される事になった
麗華だかこれが悪夢の始まりだとは
麗華は予想もしていなかった
夏美「そう言えばここに何しに
来たんだっけ？」
ケロロ「すっかり忘れてだであります！！
どうしよう」

翔子「明日探しに行けばいいよ」

ケロロ「そうでありますな」

ケロロ達が時間を無駄に浪費している

ころクルルは何かを発見したのだから

これはまだ別の話…

つづく

第五話

その日の夜日向家で

秋「ただいま」

夏美「お帰りママ」

この人は日向秋 漫画編集者である

そのあとに春が帰って来た

春「ただいま」

ケロロ「お帰りなさいであります春殿」

日向春 冬樹と夏美の父親で職場は西澤財閥

翔子「今ご飯出来たわよ」

夏美「今日はなんだろ」

翔子「石焼きビビンバよ」

春「おビビンバか」

リビングに行き食べる準備をするみんな

ケロロ「今日は我が輩が…」

夏美「なにをやるのよ」

ケロロ「号令でありますよ」

冬樹「食べよ」

ケロロ「いただきますであります」

はなふあ「いただきます」

日向家の平和な1日はこれで終わった

一方太陽系外のある惑星では

????A「ガラガラガラ」

????B「何のごようでありますガラ」

????A「お前にはペポコンにいつて

もらっガラ」

???? B 「ペポコン ガラ？」

???? A 「そうだガラ」

???? B 「了解ガラ！」

謎の宇宙人は地球へ向けて出発した
そのあと彼の上司と思われる人物が
ニヤリと笑った

つづく

第六話

翌日再び宇宙人街

にある駐在所

ケロロ「感謝感激であります」

ポヨン「今回限りポヨ！」

そう今日は麗華との面会が許された

日だった 実はまだ麗華は釈放されて

いないため面会という形じゃないと

あえない

（面会室）

ある程度話した麗華とケロロとリルル

ケロロ「一緒に仲間を探してくれるのでありますか」

麗華「当然よ 私もリルル小隊のメンバーなんだがら」

こうしてその1時間後 麗華は釈放され自由の身になった

一方冬樹達は…

秘密基地にいた

冬樹「クルルの方は何が見つけたの？」

クルル「いや」

ギロロ「何かを発見した時点でおかしいなことだ」

翔子「それどうということよ」

ギロロ「リルル小隊のアンチバリアは

普通のと違ってステルス機能が装備

されてる だがらケロン軍の科学でも

キャッチは不能だ」

翔子「ふーん」

その後ケータイの着新音があった

ギロロ「お前か？ ペポコン人と接触
できたか？」

ケロロ「出来たであります

あとねえそのペポコン人

秘密基地に連れて行くから」

ギロロ「バカ！ペポコン人に

機密をばらす気か！」

ケロロ「問題ない そのペポコン人

桃華殿と友人みたいだから」

桃華の姉という事実は伏せるケロロ

ギロロ「わかった お前の好きにしろ」

ケロロ「了解であります」

その後電話を切った

ギロロ「ケロロの奴一体何を考えているんだ」

ギロロは当然知らない麗華ケロン軍の

一員だと言う事を…

つづく

第七話

11月27日 日向家 秘密基地の軍曹ルーム内
ケロロ「今日集まってもらったのは
他でもない」

いつもよりえらそうに言うケロロ

ドロロ「体何のようござるか？」

ケロロ「みんなのおかげでリルル小隊の
メンバーが見つかったのであります」

ギロロ「その事か？」

ケロロ「へ？」

ギロロ「確か昨日ペポコン人を連れて
来るってお前いったよな？」

ギロロの近くにより耳元で話すケロロ

ケロロ「そのペポコン人がリルル小隊の
メンバーでありますよ」

ギロロ「うそつけ！ そんな冗談が
通じるとおもつか！」

クルル「嘘じゃないぜ」

ギロロ「なに？」

ドロロ「どういう意味でござるか？」

クルルがパソコンをみんなの所へ
持って来た

クルル「西澤麗華 階級は曹長 リルル小隊
のオペレーターとしてつとめてる

5年前にペポコン視察にいった

ケロン軍人によって拉致 それ

以外の情報は不明だぜ」

麗華の過去は謎のままである

だが麗華の過去が明らかになるのは

後だかそれはまだ別の話し

ギロロ「そのペポコン人今日来てるのか？」

ケロロ「だから小隊を呼んだんであります

麗華殿 入って来てちょ！」

つづく

第七話（後書き）

ケロロ小隊の出番が多くなっちゃいました

第八話

ケロロ「麗華殿入って来てちょ！」

ドアを開けて1人の少女とリルルが入って来る

リルル「紹介するわ彼女の名は

西澤麗華 曹長よ」

ドロロ「宜しくでござる」

麗華「宜しくね」

ケロロ「さーて自己紹介も済んだ事出し

ガンブラでも作るてあります」

まだ小隊の自己紹介を言ってないけど

そこへモアが来た

ケロロ「何事でありますかモア殿」

問いかけに対し

モア「それが ガルル小隊から連絡がありました」

ケロロ「ガ ガルル！」

ガルル中射はギロロの兄である

ギロロ「内容は？」

モア「ヴァイパーがペポコンに向かった…」

ギロロ「ヴァイパーだ！」

ヴァイパーはケロン人の敵のである

ケロロ「あのヴァイパーがペポコンにその時モニターにヴァイパーが

ヴァイパー「ご機嫌いかがかなケロン人」

タママ「お前は！」

ケロロ「ヴァイパー！」

ヴァイパー「このペポコン人を人質

にした」

画面がきり変わる

驚く小隊メンバー

麗華「翔子！」

ケロロ「麗華殿 翔子殿をご存じで
ありますか？」

麗華「幼なじみなの私と翔子は」

ケロロ「そうでありましたか」

ヴァイパー「和むなガラ！」

クルル「戦場所はどこだ？」

ヴァイパー「いつもの戦場に決まってるガラ」

いつもの戦場とはTVシリーズで

おなじみのあの戦場である

ケロロ「我々は翔子殿を救うべく

ヴァイパーを倒すであります」

小隊「了解！」

ケロロ「麗華殿とリルル殿は」

麗華「私達も行くわ」

リルル「当然よ」

ケロロ「では出発！」

小隊及びリルルと麗華「おお！」

こうしてヴァイパーとの戦いが幕を開ける…

つづく

第八話（後書き）

なんか日向家の出番が少なくてすみませんもう出番はないかと思
います

リルル小隊のメンバーはヴァイパー戦で登場します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9087y/>

超小説版ケロロ軍曹 新

2011年12月2日01時48分発行